

令和3年 兵庫県がん診療連携協議会

「兵庫県がん・生殖医療ネットワーク」の運営状況

患者背景

カウンセリング実施数 (名)	54
妊孕性温存希望者 (名)	46
年齢 (歳)	2 ~ 46
原疾患 (名)	
乳がん	21
白血病	7
その他	18

(2020年1月～12月)

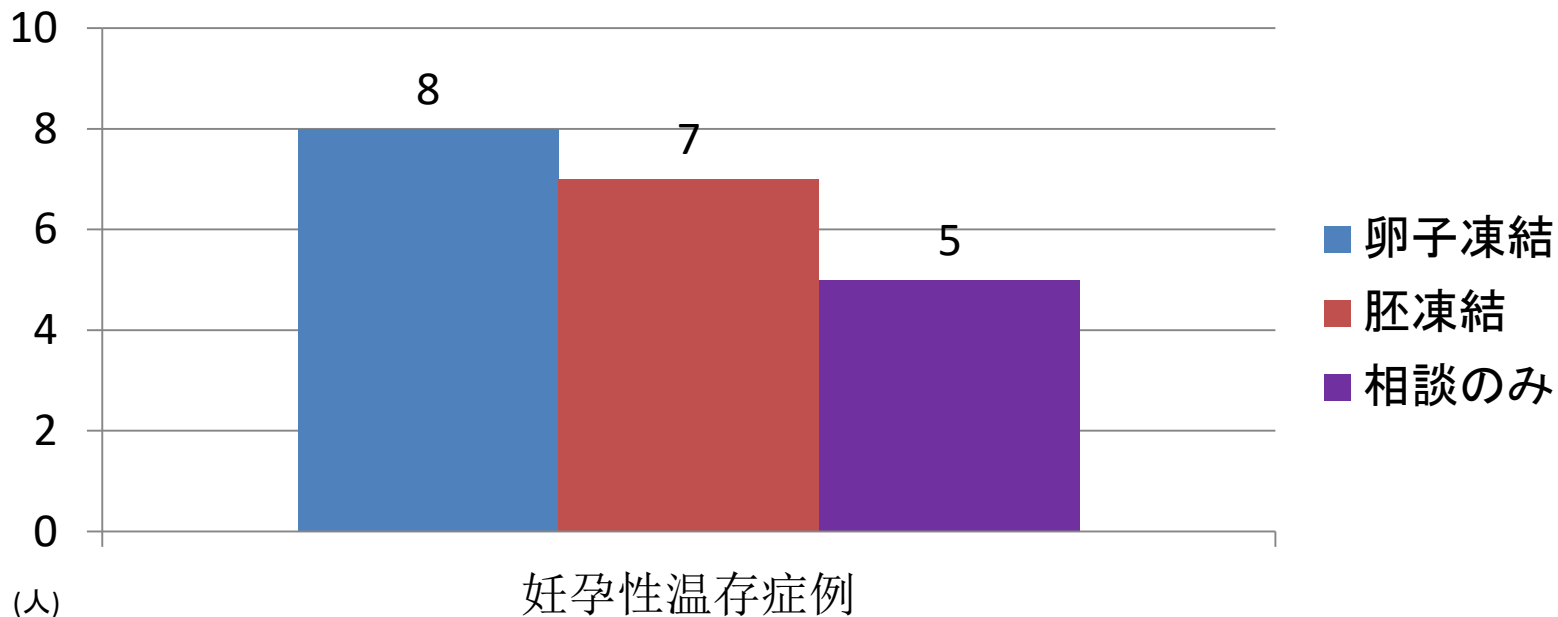
「兵庫県がん・生殖医療ネットワーク」による妊孕性温存

不妊治療施設 (所在地)	受精卵凍結	卵子凍結	卵巣凍結
英ウイメンズC (神戸市)	7	8	0
徐レディースC (西宮市)	0	0	0
兵庫医科大学 (西宮市)	8	10	13

(2020年1月～12月)

英ウィメンズクリニック

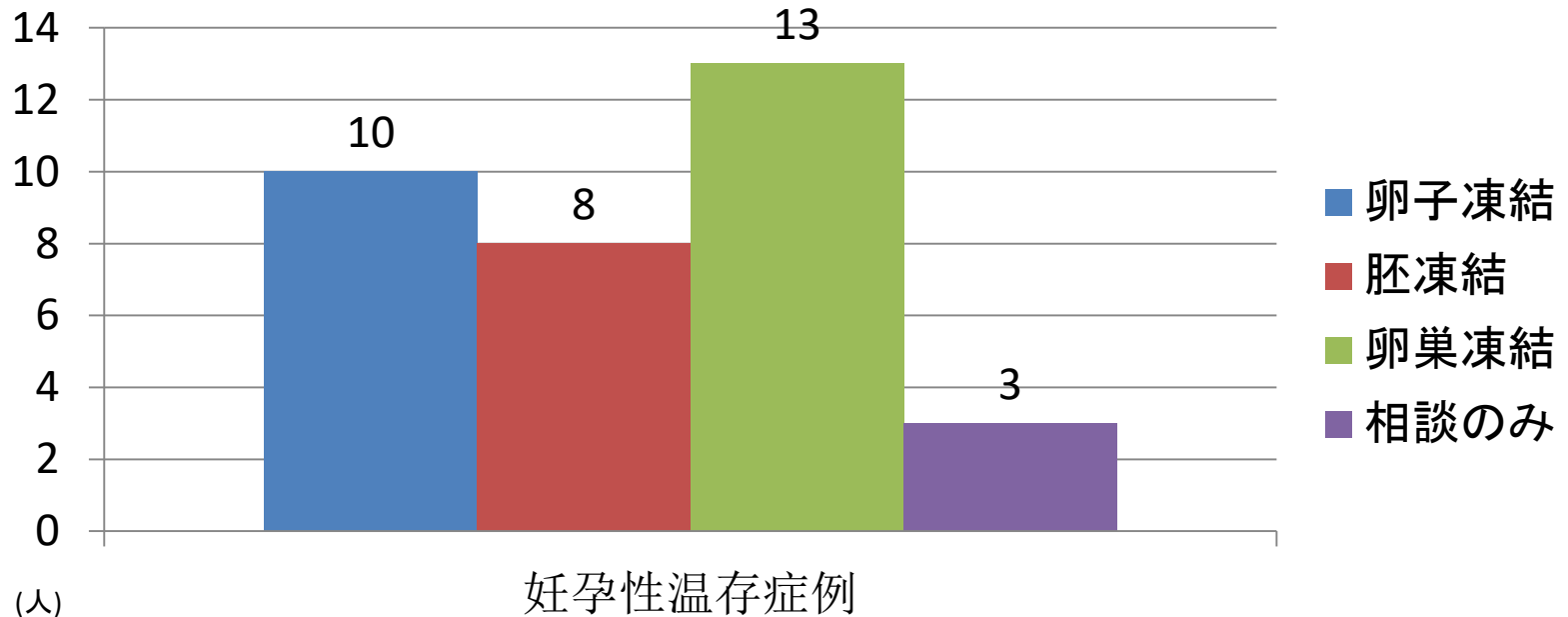
2020年1月～12月



総平均年齢: 33.7 ± 6.5 歳 (幅: 16-46 歳)

兵庫医科大学病院

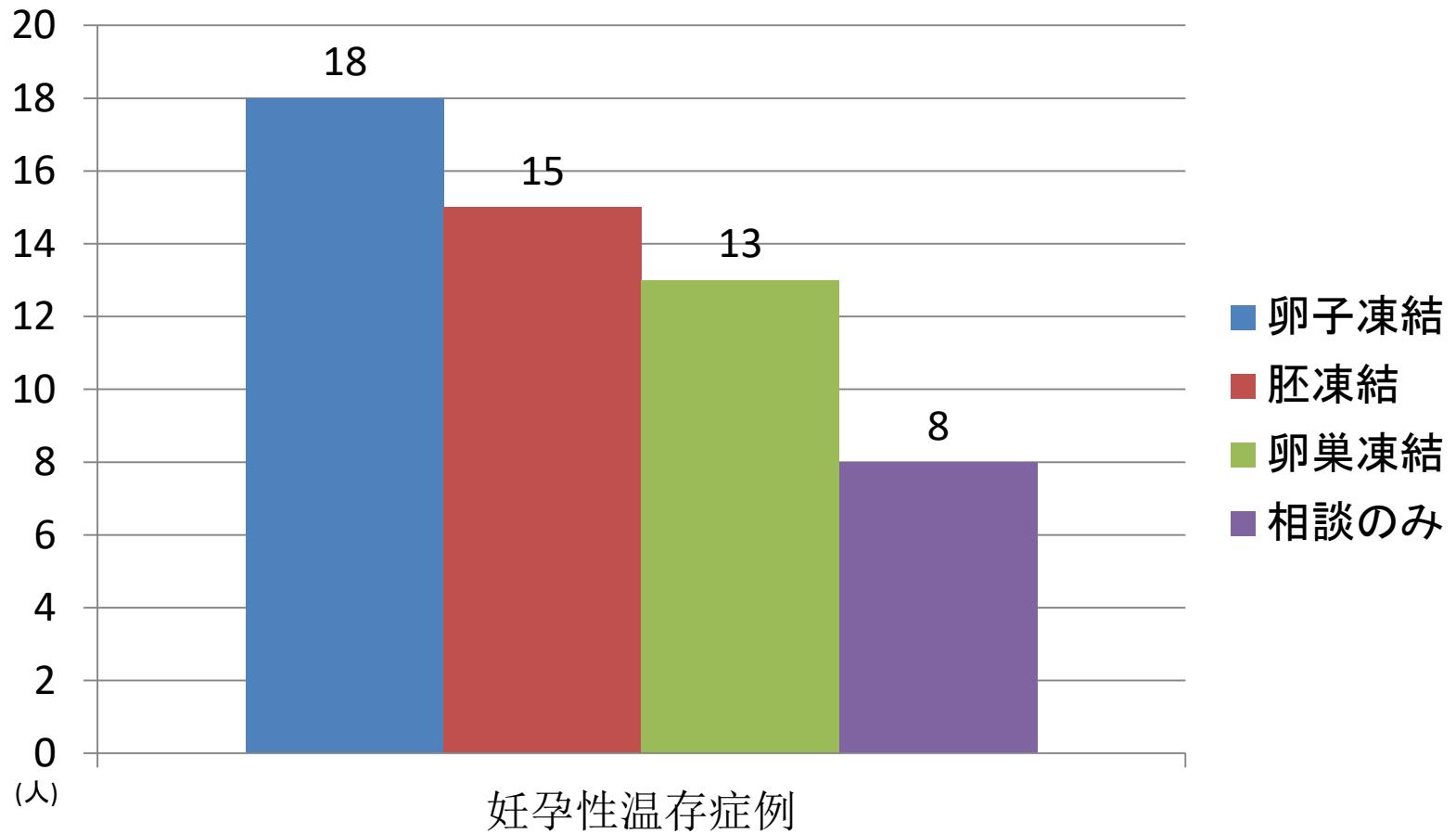
2020年1月～12月



総平均年齢: 25.6±9.9歳 (幅: 2-44歳)

兵庫県統計

2020年1月～12月



総平均年齢: 28.5 ± 9.6 歳 (幅: 2-46 歳)

兵庫県若年がん患者妊孕性温存治療費助成事業について

1 事業概要

治療の影響で、将来の妊娠が見込めなくなるがん患者に対し、患者が将来に希望を持ってがん治療に取り組むことができるよう、妊孕性温存治療に要する経費を助成する。

2 補助対象者

がん治療により、生殖機能が低下又は失う恐れがあると診断された43歳未満の県民

3 所得制限（市によって独自設定をする場合あり。下記「5」参照。）

区分	所得の要件
未婚かつ未成年の場合	妊孕性温存治療を受けた者と生計を一にする親権者全員の所得額の合計が400万円未満
未婚かつ成年の場合	妊孕性温存治療を受けた者の所得額が400万円未満
既婚の場合	妊孕性温存治療を受けた者及びその配偶者の所得額の合計が400万円未満

4 実施主体：市町

5 令和2年度実施市町と申請先

市町名	所管課	電話番号	事業開始予定月等
神戸市	健康企画課	078-322-6517	令和2年4月 ※受付開始は、4月中旬頃
姫路市	保健所予防課がん検診担当	079-289-1555	令和2年4月 ※対象者の所得制限なし
相生市	子育て元気課	0791-22-7168	令和2年4月
豊岡市	健康増進課	0796-24-1127	令和2年4月
赤穂市	保健センター	0791-46-8701	令和2年4月
西脇市	健康課	0795-22-3111	令和2年4月
養父市	健康課	079-662-3167	令和2年7月
多可町	健康課	0795-32-5121	令和2年4月
播磨町	すこやか健康グループ	079-435-2611	令和2年4月 ※対象者の所得制限は、730万円未満
福崎町	健康福祉課	0790-22-0560	令和2年4月
上郡町	保健センター	0791-52-2188	令和2年4月 ※対象者の所得制限なし

※ 実施市町は、令和2年3月30日時点で確実に次年度実施予定の市町のみを記載しています。

令和2年度中に上記以外の市町で事業開始の可能性もあります。

※ 対象者は、がんと診断されてから妊孕性温存治療が終了するまでの間、当該市町に在住している方です。

※ 各市町の申請書類は確定次第、当該市町のホームページに掲載しますので、ご確認ください。

6 補助額

	対象治療	助成額
女性	卵巣組織の凍結	所要額の1/2（上限額300千円）
	卵子、胚の凍結	所要額の1/2（上限額200千円）
男性	精巣内精子の凍結	所要額の1/2（上限額200千円）
	精子の凍結	所要額の1/2（上限額25千円）

7 指定医療機関

妊孕性温存治療の内容	医療機関
精子の採取凍結（手術を伴う場合を含む）	がん治療主治医から紹介を受けた医療機関
卵子、卵巣組織の採取凍結又は胚（受精卵）の凍結	公益社団法人日本産科婦人科学会の「医学的適用による未受精卵子、胚（受精卵）および卵巣組織の凍結・保存に関する見解（平成31年4月改定）」に準じて妊孕性温存治療を行う医療機関

8 その他

- ・補助金申請に際し、医療機関に記載いただきたい様式(例)は、別紙1（妊孕性温存治療実施医療機関用）別紙2（がん治療実施医療機関用）のとおりです。（実施市町において、若干様式が異なる場合があります。）
- ・兵庫県特定不妊治療費助成事業と治療期間が重複する場合、双方での補助申請は認められません。
- ・市町への申請期限は治療終了後、3か月以内です。
- ・患者の状態により医師の判断で妊孕性温存治療を中止した場合、それまでに要した費用を申請することができます。

兵庫県若年がん患者 妊孕性温存治療費助成事業について

兵庫県において各市町で開始
（令和2年4月から、西宮市は対象外）

相談申込書・紹介要領・患者向けの案内の改訂

①

兵庫医科大学病院「妊孕性温存」相談申込書

平成 年 月 日

兵庫医科大学病院 地域医療・総合相談センター 産婦人科医科		医学科 病棟科・主治医 電話番号 FAX番号 所在地	
相談希望者について			
フリガナ 患者氏名	相談希望日時		
生年月日	年 月 日 (歳)	第 1 月 日 午前・午後	
姓	氏名	第 2 月 日 午前・午後	
TEL			
・結婚歴・妊娠出産歴 ☐ 未産 ☐ 既産 () 回・出産 () 回 ・既往歴 () ・今後の治療予定 (手術・化学療法の種類・放射線治療の有無など) ☐ 未定 ☐ 予定 () ・がん治療開始までの時間的余裕 (本申込後、いつまでにがん治療を開始するのが望ましいか) ☐ 約1ヶ月以内 ☐ 約2ヶ月以内 ☐ 約3ヶ月以内 ☐ その他 ()			

※初診相談料金は、1回 10,000 円 (税別) をお支払いいただきます。その他、当日に検査等をする場合は別途加算された金額になります。

兵庫医科大学病院 地域医療・総合相談センター
FAX 宛先: 0798-45-6002 TEL: 0798-45-6001

②

兵庫医科大学病院「妊孕性温存」相談室への紹介要領

【はじめに】

手術・化学療法・放射線治療等の進歩により、若年がん女性の社会復帰の可能性は高まりましたが、副作用により妊孕性を喪失することがあります。近年、生殖医療の進歩に伴い、卵巣・胚・卵巣組織を凍結保存することで、このような女性の妊孕性を温存することが可能となりました。一方で妊孕性温存のためにがん治療が遅れ、予後の悪化が懸念されることも事実です。そこで生殖医療と各科のがん治療が緊密に連携できるよう、2018年1月に「兵庫がん・生殖医療ネットワーク」を設立いたしました。このネットワークへのご紹介の際には、別添「兵庫医科大学病院「妊孕性温存」相談申込書」を御利用ください。

【対象患者】

1. 若年のがん女性に主たる対象となります。良性疾患でも化学療法を必要とする患者さんおよび免疫疾患患者や付属臓器・付属臓器の患者等も対象。
 2. 手術、化学療法、放射線療法、ホルモン療法など卵巣機能性や卵巣組織補助作用のある治療を予定している患者。
 3. 患者および保身人 (未成年者の場合) に希望。妊孕性の温存の希望があり、兵庫医科大学病院で「妊孕性温存」相談を希望していること。
 4. 妊娠可能年齢の女性 (原発病、および性成熟期の女性であること)。
 5. 妊孕性温存位置 (原疾患の主治医の許可 (手術や時間的)) が得られていること。
- ※ご紹介を頂いた患者様につきましては、妊孕性温存の適応がある方と考慮して対応させていただきます。

【妊孕性温存位置の特長】

妊孕性温存位置の方法を表1に示す。

- ・現在広く行われている技術としては受精凍結や卵子凍結です。これらの方法は約1ヶ月～約2ヶ月の排卵開始が必要ですが、月経のない小児がん患者に適用ができません。
- ・卵巣凍結は月経のない小児がん患者にも適応があります。排卵開始が必要で約1週間程度でがん治療が望めます。排卵開始の時間的余裕のない患者に適応して行なわれています。
- ・凍結した卵巣に微小残存がん病変が存在することがあります。この場合、卵巣摘出により再発の危険性が指摘されていますので、より安全に卵巣から未成熟卵子を回収し、体外受精、体外受精を行う方法があります。

③

「妊孕性温存」相談を御希望の患者さんへのご案内

	胚 (受精前) 凍結	卵子 (未受精前) 凍結	卵巣凍結
利点	妊娠率が比較的高い	凍結にも適応 (種子は不要)	・思春期以前にも適応 ・排卵開始が必要
欠点	・排卵開始が必要 (がん治療の遅延) ・種子が必要	・排卵開始が必要 (がん治療の遅延)	・手術 (基本・無痛麻酔) が必要 ・移植の際に腫瘍細胞が侵入するリスクがある

【紹介の手順】

1. 「妊孕性温存」相談の実施にあたり、兵庫医科大学病院のがん診療支援室でカウンセリングを行いますので、受診には必ず予約をお願いします。
 2. 【兵庫医科大学病院「妊孕性温存」相談申込書】を当院の地域医療・総合相談センター宛にファクス (FAX: 0798-45-6002) にてお送り下さい。
 3. 当日中に実施日時のお知らせ (予約受付票) を FAX にて返信いたします。
但し、紹介 FAX 受付時間は月～金の 9:30～16:30 です。受付時間外にご送頂いた場合は当日のご予約日のお返事は、翌診療日の受付時間内になりますのでご了承ください。
予約後は午前中は月～金の 11:00～の1枠、午後中は月・火・木・金の 14:00～の1枠になります。申込書に相談希望日時を記載して下さい。
 4. 患者さんの状況が複雑な場合や記載内容がファクスでの送信に過ぎないような場合は、あらかじめ下記各医師へ直接お電話でご相談ください。
 5. 患者さんにお渡ししたくもの
・兵庫医科大学病院から (予約受付票) (受診日時を記載したもの)
・紹介状 (備後で使用されているもの)
・別添【兵庫医科大学病院「妊孕性温存」相談を御希望の患者さんへのご案内】
・別添【「妊孕性温存」相談室】
 6. 妊孕性温存位置の希望があれば兵庫医科大学病院に連絡のうえ妊孕性温存位置を行います。
尚、「兵庫がん・生殖医療ネットワーク」参加施設での妊孕性温存位置を希望される場合は紹介状を併送します。
 7. 妊孕性温存位置施設後、原疾患の治療を開始します。
但し、原疾患の治療を開始しながら妊孕性温存位置を施行する場合もあります。
 8. 原疾患の治療が終了し、患者からの要請と原疾患の主治医から妊娠の許可が得られた場合は、妊孕性温存位置を施行した施設で凍結した受精前・卵子・卵巣組織を融解し妊娠に向けて移植の準備を行います。
- 【紹介に際してお問い合わせ先】
〒653-0201 兵庫県西宮市武庫町1番1号
兵庫医科大学病院 産婦人科医科 (担当医: 奥平清孝、松本裕)
電話番号: 0798-45-6481 FAX 番号: 0798-46-4163

③

「妊孕性温存」相談を御希望の患者さんへのご案内

～「妊孕性温存」相談室の受診にあたって～

【はじめに】

手術・化学療法・放射線治療等の進歩により、若年がん女性の社会復帰の可能性は高まりましたが、副作用により妊孕性を喪失することがあります。近年、生殖医療の進歩に伴い、卵巣・胚・卵巣組織を凍結保存することで、このような女性の妊孕性を温存することが可能となりました。一方で妊孕性温存のためにがん治療が遅れ、予後の悪化が懸念されることも事実です。そこで生殖医療と各科のがん治療が緊密に連携できるよう、2018年1月に「兵庫がん・生殖医療ネットワーク」を設立いたしました。

このネットワークを通じて兵庫医科大学病院がセンター内のがん診療支援室で、医師による妊孕性温存カウンセリングを予約制で実施しています。月～金の 11:00～11:30 と、月・火・木・金の 14:00～14:30 です。このネットワークを利用するにあたり、かかりつけの先生に「兵庫医科大学病院「妊孕性温存」相談申込書」に必要事項を記入のうえ、地域医療・総合相談センター宛にファクス (FAX: 0798-45-6002) していただくこと。

※初診料金は診察費で 10,000 円 (税別) をお支払いいただきます。その他、当日に検査等をする場合は別途加算された金額 (費) になります。

【お申し込みについて】

「妊孕性温存」相談にお越しの際は、以下のものを御準備ください。

- ①かかりつけ医からの「紹介状」
- ②兵庫医科大学病院の「予約受付票」
- ③健康保険証 (ただし自費診療ですので、健康保険の適用ではありません。)
- ④当院の診察券 (お持ちの方のみ)

※受診当日は予約時間の 15～20 分前までに1号線1階相談室内にお越し下さい。

※当日遅刻しそうな場合は下記の地域医療・総合相談センターまでお電話ください。

・影響開始が予約時間から多少過ぎることもありますのでご了承ください。

【紹介に際してお問い合わせ先】

〒653-0201 兵庫県西宮市武庫町1番1号
兵庫医科大学病院 産婦人科医科 (担当医: 奥平清孝、松本裕)
電話番号: 0798-45-6035 FAX 番号: 0798-46-6002

- ①『兵庫医科大学病院「妊孕性温存」相談申込書』
- ②『兵庫医科大学病院「妊孕性温存」相談室への紹介要領』
- ③『兵庫医科大学病院で「妊孕性温存」相談を御希望の患者さんへのご案内』

⇒男性がん患者に対する妊孕性温存を本ネットワークの対象患者に含めるため改訂した。

男性がん患者に対する妊孕性温存

兵庫医科大学病院で「妊孕性温存」相談を御希望の患者さんへのご案内
～「妊孕性温存」相談室の受診にあたって～

【はじめに】

手術・化学療法・放射線治療等の進歩により、若年がん患者の社会復帰の可能性は高まりましたが、副作用により妊孕性（妊娠のしやすさ）を喪失することがあります。近年、生殖医療の進歩に伴い男性では精子、女性では卵子・胚・卵巣組織を凍結保存することで、妊孕性を温存することが可能となりました。一方で妊孕性温存のためにがん治療が遅れ、予後の悪化が懸念されることも事実です。そこで生殖医療医と各科のがん治療医が緊密に連携できるよう、2016年1月に「兵庫県がん・生殖医療ネットワーク」を設立いたしました。

このネットワークを通じて兵庫医科大学病院生殖医療センターで、医師らによる妊孕性温存カウンセリングを月～金の11:00～11:30に予約制で実施しています。このネットワークを利用するにあたり、かかりつけの先生に『兵庫医科大学病院「妊孕性温存」相談申込書』に必要事項を記入のうえ、医療支援センター宛にファクス（FAX：0798-45-6002）してもらってください。

※相談料金は自費診療で10,000円（税別）をお支払いいただきます。その他、当日に検査等をする場合は別途加算された金額（自費）になります。

【持参いただくもの】

「妊孕性温存」相談にお越しの際は、以下のものをご持参ください。

- ①かかりつけ医からの「紹介状」
- ②兵庫医科大学病院の「予約受付票」
- ③健康保険証（ただし自費診療ですので、健康保険の適用ではありません。）
- ④当院の診察券（お持ちの方のみ）

※受診当日は予約時間の30分前に1号館1階 初診受付にお越し下さい。

※当日遅刻しそうな場合は下記の医療支援センターまでお電話ください。

・診療開始が予約時間から多少遅れることもありますのでご了承ください。

【紹介に関わるお問い合わせ先】

〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号

兵庫医科大学病院 医療支援センター

電話番号：0798-45-6001 FAX 番号：0798-45-6002

兵庫医科大学病院「妊孕性温存」相談室への紹介要領

【はじめに】

手術・化学療法・放射線治療等の進歩により、若年がん患者の社会復帰の可能性は高まりましたが、副作用により妊孕性を喪失することがあります。近年、生殖医療の進歩に伴い、男性では精子、女性では卵子・胚・卵巣組織を凍結保存することで、妊孕性を温存することが可能となりました。一方で妊孕性温存のためにがん治療が遅れ、予後の悪化が懸念されることも事実です。そこで生殖医療医と各科のがん治療医が緊密に連携できるよう、2016年1月に「兵庫県がん・生殖医療ネットワーク」を設立いたしました。このネットワークへのご紹介の際には、別紙『兵庫医科大学病院「妊孕性温存」相談申込書』を御利用ください。

【対象患者】

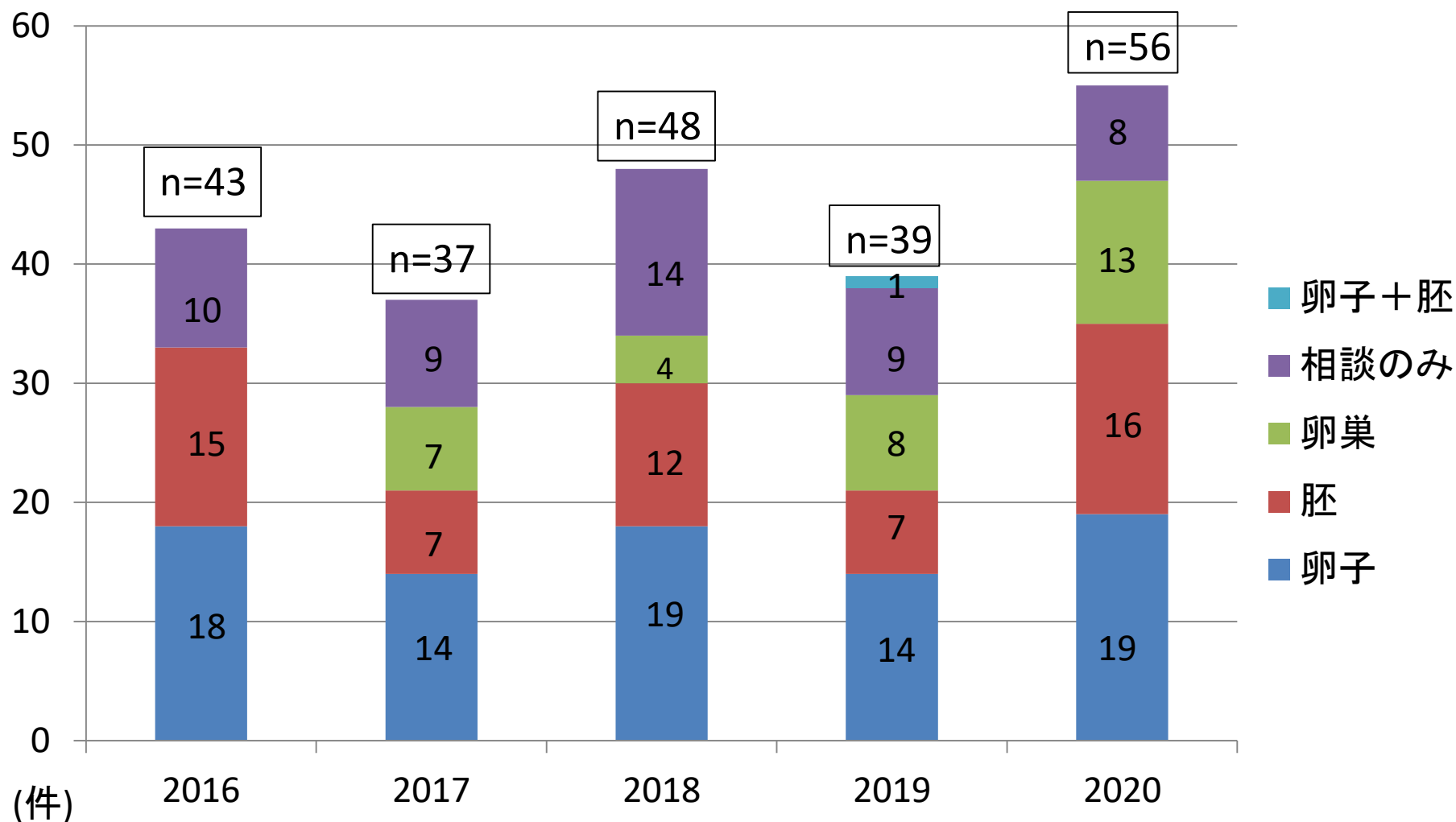
1. 若年のがん患者さんが主たる対象。良性疾病でも化学療法を必要とする患者さんおよび免疫疾患や卵巣・精巣腫瘍の患者等も対象。
2. 手術、化学療法、放射線療法、ホルモン療法など卵巣・精巣毒性や卵巣・精巣機能抑制作用のある治療を予定している患者。
3. 患者および後見人（未成年者の場合）に育児希望、妊孕性温存の希望があり、兵庫医科大学病院で「妊孕性温存」相談を希望していること。
4. 妊娠可能年齢の女性（閉経前）、性成熟前の女兒、および性成熟後の男性。
5. 妊孕性温存処置に原疾患の主治医の許可（予後や時間的に）が得られていること。
※ご紹介を頂いた患者様につきましては、妊孕性温存の適応がある方と考えて対応させていただきます。

【妊孕性温存処置の特徴】

妊孕性温存処置の方法を表1に示す。

- ・男性では、採取した精液中の精子や精巣内精子を培養液とともに凍結保存します。
- ・女性では、受精卵・卵子・卵巣を凍結保存します。受精卵・卵子凍結は排卵誘発が必要で約1ヶ月を要します。月経のない小児がん患者は対象外です。
- ・卵巣凍結保存は月経のない小児がん患者にも適応があります。排卵誘発が不要で1週間以内でがん治療開始が望めます。排卵誘発の時間的余裕のない患者に適応されます。
- ・凍結した卵巣に微小残存がん病変が存在することがあります。この場合、卵巣移植により再発の危険性が指摘されていますので、より安全に卵巣から未成熟卵子を回収し、体外培養後、体外受精を行う方法があります。

兵庫県におけるネットワーク設立後の 妊孕性温存実施周期数の推移



兵庫県におけるネットワーク設立後の 妊孕性温存症例のアウトカム

	胚	卵子	卵巣
凍結患者数	43	34	28
移植患者数	16	0	0
妊娠成立数	12	0	0

卵子と胚、あるいは卵子+卵巣を凍結した患者さん(2名)の移植も未。

2016年1月～2020年12月(5年間)

今後の課題

- 兵庫県内の一部の市町村では、がん患者妊孕性温存治療助成事業が開始したが、西宮市などは依然未整備である。
- 男性がん患者に対する妊孕性温存を本ネットワークの対象患者に含めるため、紹介要領を改訂したが、今後は県内における男性の妊孕性温存症例の泌尿器科施設との連携が必要である。
- 兵庫県がん生殖医療ネットワークの窓口の兵庫医科大学病院において、2020年より開始された日本がん・生殖医療学会による認定がん・生殖医療ナビゲーター資格認定(2名)と認定がん・生殖医療施設登録の維持。
- ・ 凍結卵子と卵巣の移植例は未だないが、卵子凍結は未婚患者に適用され、卵巣凍結は小児にも適用があるため移植まで長期間の保存が必要である。今後も原疾患の治療後の妊娠の支援体制を継続し、さらに長期保存後の移植率と妊娠率を検討する必要がある。